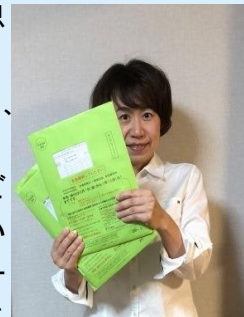


「緑の季節」西村

雨にぬれて新緑が鮮やかな梅雨入りの季節を迎えました。

そして皆様のお手元には、緑の封筒が届き、今年もまた労働保険年度更新の時期がきたと思っておられる方が多いのではと思います。

今年の変更点はというと、労災保険については3年に1度の保険率改定の年となっており、54業種の内、引き下がった業種が20業種、引き上がった業種が3業種、多くの業種は据え置きとなっています。封筒から申告書を取り出されたら、まずは印字してある保険料率をご確認いただき、変更になった業種の事業所さまは、計算間違いのないようご注意ください。なお、厚生労働省のホームページには、エクセルで使える年度更新申告書計算支援ツールがダウンロードできるようになっています。給与ソフトを使用されておられない事業所さまは、是非、ご活用ください。



今さら聞けない 経済用語

今月の教えてキーワード：【GDPR (General Data Protection Regulation)】

欧州連合（EU）が、個人情報の保護を目的に定めた新規則のこと。2018年5月から適用が開始された。日本語では「一般データ保護規則」という。EU域内で取得したメールアドレスやクレジットカード番号などの個人情報をEU域外へ移転することを原則禁止しており、移転する場合はEUが定めたルールに従う必要がある。日本企業もEUで従業員を現地採用した際などに影響がある。違反した場合、高額の制裁金が課される。

偉なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

【あくなき向上心の果てに「足利義満」】

南北朝の統一に成功した足利義満は1358年に足利義詮（よしあきら）の嫡男として生まれました。室町幕府初代将軍で、朝廷を南北に分かつこと



となった足利尊氏は祖父にあたります。尊氏が将軍の器には不足な義詮の姿に不安を抱きながら逝去した約100日後に誕生した義満は、幕府再建の宿命を背負って10歳にして征夷大将軍に就任。南北朝の統一を目指す義満は、朝廷で天皇に次ぐ高い地位にいた日野家から正室を迎え、公家社会

の実力者である二条良基から礼儀作法や和歌などの文化教養を学びました。当時、政治の中枢は朝廷が握っていましたが、義満は裁判や商工業の権利も掌中に収め、次第に朝廷をしのぐ影響力を持つようになっていきます。そして34歳の頃、半世紀以上にもおよぶ南北朝の分裂に終止符を打ったのでした。野心はこれにとどまらず「日本国王」の称号を得て、明（みん）との勘合貿易も始めます。こうして天皇家をものぐ権力を手に入れた義満ですが、50歳で急病により突然にその生涯を閉じます。義満の死後、第4代将軍となった義持は、義満の政治をことごとく否定。明との貿易も中止し、武家中心の政治に切り替えました。圧倒的なカリスマ性を持ち強権的だった父・義満の政治手法は父にしかできないという決断が、150年以上にわたる足利政権の安定につながったのかもしれませんが。

今を生きる
先人の言葉

天は自ら助くる者を助く

イギリスの作家であるサミュエル・スマイルズの言葉。誰かがどこかでちゃんと見ている。自分で何とかしようとするべきことをやれば、いつしか幸運は訪れる。

トレンドを斬る!

人工知能を搭載し、音声操作のアシスタント機能を有するAIスピーカーの勢いが止まりません。最初に登場したアマゾンの

「エコー」は音楽の再生や検索した情報の読み上げの他、音声による注文機能も備えています。家電製品や各種センサーとの連携により、自宅全体を音声でコントロールする機能にも期待できます。従来の「指」で操作するスマートフォンから「声」で操作できるAIスピーカー市場にはグーグルも参戦し、次世代に向けた新たな攻防の幕開けです。



365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント：【非常識から学べ】

観光庁によれば平成29年の訪日客消費額は初の4兆円超えで、過去最高を更新しました。外国人をターゲットにしたインバウンドビジネスは今後も伸びていくことが予想され、貴社の商売でも外国人と接する機会が今まで以上に増えるかもしれません。外国人が相手だと真っ先に言葉の壁を心配する人が多いようですが、言葉以上に悩ましいのは常識の違いでしょう。小売業を営むA氏は身をもってそれを実感したばかりです。



A氏が取引先を招いてホームパーティーを開いたときのこと。表向きはざっくばらんな懇親会でしたが、実は新規の取引先であるブラジル人のS氏のサプライズパーティーでもありました。S氏には「午後1時に来てね」と伝えておき、他の人たちは先に集まってS氏を歓迎しようという計画でした。ところがS氏は30分も遅れて来たのです。しかも悪びれた様子はまったくありません。A氏は思わず感情的になって、約束に遅れて来たS氏を非常識だと責めました。しかしS氏は相手が何に腹を立てているのかまったく理解できず、しばらく面食らっていたそうです。ブラジルでは、内輪のパーティーに呼ばれたら始まるの時間より30分ほど遅れて行くのがマナーだったのです。

それは、相手が急いで用意をしなくても済むようにという心遣いでもあり、1時間くらい遅れて行く人も少なくないのだとか。つまりS氏は遅れてしまったのではなく、マナーとしてあえて遅れて来たのでした。約束の時間を守るのが当たり前だという日本と、遅れて行くのが当たり前だというブラジル。後日、その事実を知ったA氏は「当たり前」が違う同士でお互いを非常識だと非難するのは、それこそ非常識というものだったと深く反省したそうです。



国が違えば常識も違う。国が同じでも人の数だけ常識がある。分かっているつもりでも、つい自分の常識が万国共通だと思ってしまうことがあります。時に常識を疑うことも必要だろう。これがA氏にとっての商売の新常識となったようです。

トナリの

本棚



【君たちはどう生きるか】

1937年に出版されて以来、読み継がれてきた名著が漫画化され、幅広い世代から共感を得ています。少年と父親代わりのおじさんとのやりとりを通して考えさせられる昔も今も変わらない人生のテーマ。大人が魅了される感動の一冊です。

船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております ☺☺☺☺☺☺